

## ヴェネツィアにおける海外小麦の輸入取引

—1539, 40年— (1)

齊藤 寛海

### はじめに

16世紀の地中海では、人口、特に都市人口の増加による食糧不足が、時とともに深刻化した。それによる穀物価格の上昇は、市民上層における土地所有の拡大と、農業利害の増大をもたらした。15世紀には商工業の先進地域であったイタリアが、17世紀には農業地域へと転換していくが、その理由の一部は、このような事情に求めることができるであろう。ヴェネツィアもその例外ではない。

典型的な海港都市であるヴェネツィアは、この16世紀において、内陸農業地帯の都市や農村と比較して、食糧事情にはむしろ恵まれていた。ヴェネツィアがその都市や農村の支配者であったことと並んで、その経済力・海運力により、地中海の遠近各地から大量の穀物を輸入してきたからである。こうして、飢饉の時には、人々はヴェネツィアから農村へと流出するのではなく、農村からヴェネツィアへと穀物を求めて流入した<sup>(1)</sup>。

では、その海外からの穀物の輸入は、どのようにしておこなわれていたのか。このことについて、筆者がみる機会に恵まれたある史料<sup>(2)</sup>を分析し、そのありかたを考察するのが、本稿の目的である。なお、この史料については、筆者は先に紹介したことがある<sup>(3)</sup>ので、本稿ではその紹介は省略する。その作業手続については、先ず第1章において、史料の転写とその翻訳とをおこない、次いで第2章において、穀物輸入のありかたを考察することにする。

さて、海外から船舶によって穀物を輸入する場合、その購入、運搬、販売などをめぐって、一連の多様な取引がおこなわれることになるが、その各局面毎に、この史料における記述を追跡していくことにする。その理由はこうである。つまり、この史料では、小麦の輸入についての記述の分量は膨大であり、またこの史料が書簡複写帳であることから、その記述は史料の各所に散在している。このことから、一連の多様な取引を取引内容の性格にもとづいて系統的に分類し、取引の各局面を時間の経過にしたがって追跡していくことにより、小麦取引における各局面のありかたが、はっきりと把握できると思われるからである。

では、先ず、小麦の運搬、特にそれに必要な船舶(帆船)の雇用という局面からみていこう。この局面は、上記の史料自体において述べられている<sup>(4)</sup>ように、史料作成者の立場から見た場合には最も重要なものであったので、それに最も多くの記述が費やされており、他の局面の進行状況をみていく場合に、予めそれについてみておくことが、便利であると思われるからである。なお、次に紹介する船舶雇用についての部分は、既に筆者が別の機会にその原文(中世トスカナ語で記述されている)を転写し、公刊したもの<sup>(5)</sup>を、今回翻訳するも

のである。したがって、本稿では、この部分の転写は省略する。

以下、各書簡の冒頭に付記したデータの内容は、次のとおりである。[ ] は、便宜上、筆者が各書簡に付した番号。次いで、当該書簡の作成開始日付、宛先地、宛先人。この三者は、書簡複写帳における各書簡の冒頭には、必ず記録されている。( ) は、書簡複写帳におけるその記載箇所 (r=recto・表, t=tergo・裏)。なお、固有名詞の綴りは必ずしも一定していないが、特に問題にならない場合には、慣用にしながら統一した。文中の……部分は、筆者による省略。なお、パラグラフの区切りについては、上記の転写における区切りから変更した場合が極く僅かある。

## 註

- (1) 拙稿, 「16世紀ヴェネツィアの穀物補給政策」一橋大学地中海研究会『地中海論集』第12号, 1989年, 参照。
- (2) ASF, Libri di commercio, n.174 e n.182.
- (3) 拙稿, 「リオニ商社の書簡複写帳, 1359年」上, 下, 『信州大学教育学部紀要』第55, 56号, 1985, 86年。拙稿, 「地中海商業 — 通信の問題を中心に」清水・北原編『概説イタリア史』有斐閣, 1988年, 32頁以下。
- (4) vedi, c.184r.
- (5) 拙稿, Il noleggiamento delle navi a Venezia — Una documentazione degli anni 1539—1540 —, in, Mediterranean Studies Group at Hitotsubashi University, ed.by, *Studies in the mediterranean World—Past and Present—*, Tokyo, 1988, pp.234-250.

## 第1章 史料の記述

### A 船舶雇用

- (1) 史料の転写 (省略)
- (2) 史料の翻訳

ASF, Libri di commercio, n, 174

[A・1] 1539・11・10, ペラ, グリリエルモ・ダ・ソマイア (184r—189t)

(184r) 以下に述べることから、貴方がたは、私に詳細に書き送ってください、私は、それに目を通しました。小麦取引の件。貴方がたが、マッフィオ [・ベルナルディ] 氏に委託した [事項の] うちから、私に書き送ってくださった幾つかの事項の複写。彼 [マッフィオ] と私とが合意のうえで決定すべきである、この問題についての貴方がたが私に与えてくれた広範な権限。当地 [ヴェネツィア], あるいはイタリアの他の地方から船を入手することに関する、大きな計画と明るい希望。そして、貴方がたが、そちらで、ありとあらゆる大量の小麦を入手する準備を整え、全てに目を配っていること。

ご返事として、次のように申し上げます。私は、マッフィオ氏と話し合いました。話し合いの中で、私たちは、何よりも先ず、小麦を積み込むためにそちらに送り出すことになる、船

の入手という問題に行き当たりました。この問題を解決する方法としては、彼の計画が最も現実的なものであるということ、彼から聞きました。3隻の船についての入手方法ですが、この3隻全てには、それぞれ別の問題があります。もし、この3隻のどれをも入手できないということになれば、その外には、いかなる船も入手する希望は全くなくなってしまいます。

第一は、この港に停泊中のアルフォンシーナという名の、フェッラーラ公閣下の船ですが、この船は、ロードス管区の勘定で、マルタに運ぶための材木を積んでおり、約400ポツァの積載量をもつものです。[ヴェネツィア政府の海上商業監督機関である]シニョーリアに行き、その許可を得る、つまり、この船を徴発して、その船長に…小麦[を積み込む]ためにレヴァント[この書簡では、オトランド以東を意味する]へ出航するように命令してもらおうというわけです。このことに関して、それ以後、彼[マッフィオ・]ベルナルディは、シニョーリアと話し合いをしていません。……また、現在までのところ、ベルナルディは、何もしていないと再三返答しております。

第二の希望は、当地にジョヴァンニ・ドルフィーノ殿という方の[持ち船である]ヴェネツィア船が停泊していますが、この方は、この船に[名前の部分が空白]という名前のキオス人の船長を雇い入れており、また、その乗組員の大部分は、ダルマツィア人(スキアヴォーニ)です。[ドルフィーノ殿は]既に[彼自身の]計画をもっており、ヴォーロスないしキオスに向けて航海し、(184t)それに小麦を積み、この小麦を当地に輸送してくるよう、また、そのためにはどこにおいてもあらゆる点でキオス船として通すように、この船長を説得しています。上記ベルナルディは、[もしこの船を貸してもらうことができたなら]、それが運んでくる小麦の勘定として、積荷の四分の一を彼に提供するし、それ[船]をヴォーロス向けに雇ってキオス船として送り出す、ということ、上記ジョヴァンニ・ドルフィーノ殿に申し込もうと考えています。[ベルナルディは]既に彼と何回も話し合いましたが、本当のところ、このドルフィーノは、この申し出に耳を傾ける気になったようには思えません。

第三の、そして最後の[希望]は、彼[ベルナルディ自身]のもの[船]で、とても素晴らしく、極めて優秀で、極めて装備の良い、12,000スタイオの積載量をもつ大型船を使用するというものです。そして、それがヴェネツィア船であることを隠してしまうために、ラグーザ人の船長を雇い入れ、[船の]名前、[その所有者の]名義、およびその他あらゆることを変更してしまおう、というものです。[これが]実現すれば一番良いのですが、この[計画]を実現するためには、二つの困難な問題があります。一つは、[積荷の小麦]100スタイオ当り20-25ドゥカート[という雇船料]で容易に雇用できるはずである、と貴方がたが私たちにいつてきたことです。貴方がたは間違っていると思いますし、このことに関して、[私たちに]自由委託を与えてくれるべきです。私をほとんど身動きできなくしてしまう、[見解の]大きな違いはこれなのです。上記ベルナルディは、100スタイオ当り50ドゥカート未満では相手にしてくれません。私の本心を打ち明けるのが義務だと確信しますので、それをいいますと、確かに25ドゥカートでは少なすぎますが、50ドゥカートでは多過ぎます。というのは、飢饉の時でも、40ドゥカート以上の値段で雇用されたことは、いまだかつてないからです。しかし、まことに現在は、消えてなくなったのではないかと思えるほど、適当な

船が見当たりません。それで、当然のことながら、人々が〔船を〕追いかけて回すことになり、もし見つけようものなら、60ドゥカートかそれ以上でも、小麦を輸入する〔意図をもった〕私的な商人であれ、コムーネ〔都市政府〕であれ、君主であれ、雇用したいというものがみつかるだろうということを承知おきください。というのは、いまだに、〔小麦の〕値段がかなり法外なものだからです。とはいえ、もし別の問題がなかったら、このことだけでは、私たちは手を引くつもりはありません。ベルナルディが我々の条件で折れてこないのであれば、私が彼の〔条件〕でやるだけのことです。貴方がたの〔一族の〕ジロラーモ〔・ダ・ソマイア、在フィレンツェ〕に書く機会がありましたので、彼〔ベルナルディ〕の返答を待つ時間を利用して、彼〔ジロラーモ〕に、この件についての詳細を書きました。その〔ジロラーモからの〕返書をお待ちしているところですが、彼の書いてくるところにしたがって、この件を処理していくつもりです。

もう一つの問題は、極めて重要なものです。ベルナルディは、次のようにいっています。〔彼と我々とが〕合意する条件で彼に雇船料を支払い、これ〔船〕にラグーザ人の船長と、大部分がダルマツィア人からなる乗組員とを乗せ、それを〔フィレンツェ人である〕私の船だと偽装したとしても、この船がまだ彼のものである以上、次のような危惧が消えたことにはなりません。つまり、それがレヴァントでトルコ艦隊と遭遇するとか、(185r) 荷積港でヴェネツィア船であることがばれるとかした場合には、彼は、この船を失ってしまうのではないかという危惧です。既に述べたように、〔彼の船を〕私の名義にすることにより〔ヴェネツィア船であることを〕隠蔽するし、また、別の隠蔽工作もするつもりなのに、〔彼は〕このような問題がおこることを強く危惧しているようです。……もしこうしたことが起こった場合には、損害の半分は貴方がたが負担し、残りの半分を彼自身が負担するようになることが、〔彼は〕妥当であると思っています。というのは、貴方がたが積荷の小麦の半分をもつので、この船がヴェネツィア船としてトルコ人によって拿捕された時には、その損害の半分以上を〔貴方がたが〕負担するのが当然だと、彼は思っているからです。この義務〔を引き受けること〕なしには、彼は、決して船を送り出す気にはならないでしょう。彼には、それが美しく、装備のよく整った、優秀な、処女航海に出る大型船だという思いがあるからです。このような事情ですので、こういう表現をすることを許していただきたいのですが、彼は、この危険の一部だけではなく、全部を〔一方的に〕背負い込む気にならないのです。貴方がたのためにも、彼のためにも、私のほうが彼に同意すべきであろうというのが、この件についての人々の意見です。勿論、私は、彼の本音を聞き出そうと、何回となく彼と話し合い、理を尽して彼を説得してきました。

彼は、あいかわらずこの件に固執して、動こうとはしません。多くの理由の中でも、〔特に〕次のことを私にいいました。つまり、荷積港やその他の場所において、この取引のおかげで、この船が何らかの紛糾に巻き込まれた場合、ジャンパッティスタ・〔ダ・〕ソマイアやポーマロやその外の貴方がたのお仲間が、その船に利害関係をもっていなければ、泥縄式にことを処理してしまうであろうが、貴方がたも利害関係をもっていれば、その船を取戻し、釈放させようと、ありとあらゆる方法を考えるだろう、ということです。この理由や、他に

同じような理由により、彼は、自分のいい分を捨て切れないのです。

私には、この件でうまい解決方法が見つかりませんでしたので、どうしたら良いのだろうか、と、ジロラーモに手紙を書いてみたのです。彼こそ、小麦取引に利害関係をもつ者として、また、貴方がたの中心人物として、ベルナルディのこのような要求に決着をつけるべき人です。さらにベルナルディが私に、次のようにいったからでもあります。つまり、彼は、フィレンツェのジロラーモは[貴方がたに]最も近い血縁者ですし、[居住地が近いことから]早く返事がもらえる人なので、彼[ジロラーモ]からの同意をえて欲しい、なぜなら、貴方がたから返事をもらうのでは、時間がたりないからだ、と。フィレンツェのジロラーモに報告する機会がありましたので、そのジロラーモの意見を聞く前に、私だけで、強引にこのことに決着をつけてしまいたくはなかったからです。時間を無駄にしないために、[10月]31日に、一人の使いを上記ジロラーモのもとに送りました。彼が、この私の問題を解決してくれるかもしれませんし、また、彼が小麦についての情報をうるために、貴方がたからの手紙を待っていることを、私は知っていましたので、[うまくいけば、貴方がたが彼に送った手紙の内容を、彼から私が聞かせてもらうことによって]、(185t) 貴方がたの手紙[の内容]をいち早く手に入れることができるかも知れない、とも思いました。こうして、私は、彼にこの経過を大変長く、かつ詳細に書き、その返事を待っているところなのです。

[この手紙を託そうと思っている] このブリガンティーン[船舶類型の一つ]が今夜出港しない[で明夜出港という]ことになれば、多分、明日には[フィレンツェのジロラーモからの]返事が届くでありましょうから、貴方がたは、その手紙をこの[手紙]と一緒に受け取ることになるでしょう。また、この件がどうなるのか、私の思うところを貴方がたに書くつもりです。私は、私にこうして欲しいとジロラーモが書いてくるところにしたがって、決着をつけるつもりでいます。神が、各人に対して善意を示してくださいように。

この間にも、上記の船の船長になるつもり、ラグーザ人[の当地への到着]を待っているところです。というのは、彼自身は表面に立っていないことを了承してもらうために、ベルナルディは、およそ25日前に[使いの者を/手紙を?]ラグーザに送っているからです。彼[船長]が到着したら、すぐに、8日以内にも、準備が全部整うことになるでしょう。彼の下承がえられたならば、この船は、最善のやりかたで雇用されることになりすし、私は、全てが私自身のことであるかのように、全てを丹念に熱意をもってするつもりでありますから、安心して私に任せてください。……

ベルナルディと私とは、他の方法で、[小麦]取引のための船を何とかして手に入れる方法がないかどうか、大変詳しく検討してみました、全くどうにも希望をみいだすことができませんでした。まず、当地には、ヴェネツィア船しか見当たらず、敢えて[船の]偽装売買をする者はほとんどいません。誰も、こんな冒険をしようとはしないのです。全く、こんな時節は、どこかに消えていってほしいものです。

さて、[ここには]準備の整った船は見あたらず、[そうした船は]全てキプロスやカンデーア[ヴェネツィア領クレタの首都]に出かけております。繰り返しますが、上記の船を除けば、当地では、この目的のために船を手に入れる計画は成り立ちません。それらについ

ては、既に申し上げたような障害があります。

アンコーナには、ビリオットの船以外はないということを聞きましたし、この船も雇用しうる状況にはありません。というのは、[ビリオットがその船を] 彼自身の取引のために使用したいときには、それをそちらに[彼が] 送り出す、ということを聞いているからです。

(186r) リヴォルノには、何もありません。というのは、もし仮りに、ビスケー [湾] や、西方諸地方の船が[リヴォルノに] いたとしても、[その乗組員たちは] 異教徒 [トルコ人を指す] の土地には行きたがらないからです。

ラグーザ船は、ラグーザ政府から、レヴァントで小麦を積む船は全て、その [積荷の] 三分の一をラグーザに荷降ししなければならないと命令されているので、それら [の船] については、人々は自分の思いどおりには使えないのです。

マルセイユでは、それは他の地方よりも、もっと不足しています。というのは、そちらやシリアやエジプトに10隻位が出かけてしまい、1隻も残ってはいないからです。[外の船は] 小麦をリヴォルノやチヴィタ・ヴェッキアやヴィアレージョに [運ぶ] ために、北アフリカ (バルベリア) に出かけました。こういう次第で、考慮の外ということになります。

ナポリやメッシーナでは、全て [の船] に、小麦をシチリアから、それを必要とする全て [の都市] に、つまり、ナポリ、チヴィタ・ヴェッキア、リヴォルノ、ヴィアレージョ、ジェノヴァに運ばせようと、商人たちが手付金を支払ってしまいました。

こういう次第ですから、もし、この手紙で貴方がたに申上げた計画のうち、どれか一つでも実現すれば、外のことを考えずに、この事業に乗り出すことができます。どこかの地方に何か情報はないかと、注意を怠らないつもりですし、成行きに応じて絶えず貴方がたのことを配慮し、詳細にご連絡するつもりです。

私は、貴方がたが [フィレンツェの] ジロラーモに、どこからか船を入手してくれるようにと、書き送ったものと確信しています。また、同じことを、アンコーナやナポリやメッシーナや、その外のあらゆる所に対しても、書き送ったものと確信しています。しかし、これ以上 [そのようなことを] する必要はないでしょう。どの地方からの返事も、この目的のための船の入手はどこでもできっこない、と書いてきているはずですから。チェーゼリ・カンテルモ氏に託して貴方がたに送った、私の幾つかの手紙を受領したことと思いますが、もし、受領しているのでしたら、今後は、イタリアのどの地方からも船を手に入れようとは思わないほうがいい、と私が申し上げている事情がお分かりになると思います。

私は、ベルナルディが鉄面皮な二枚舌を使って、船を調達し、それを必ず貴方がたに送り届けることができると、貴方がたに書いているのかどうかは知りません。彼は、彼の船があらゆる点でヴェネツィア船としてではなく、フランス船として取り扱われるようにするために、貴方がたがトルコ政府から、彼の船についての正式の命令書をもたらしてくれるべきだと考えている、と私に対してはいいはっています。彼は、このようなやりかた [? ringone] は、紛糾から船を守るための、決して教義にはもっていないやりかたであり、貴方がたが小麦を非常にうまく取引できるためのやりかたであると、また、その外にも同じようなことをいっています。ですから、次回からは、[彼の書き送ることの] 全部を頭から信じてしま

うようなことは控えてください。

貴方がたは、大量の小麦を手に入れるために、大変な準備をおこない、船が荷を積みに行ったら、15万スタイオ以上を搬出できると考えているとのことですが、無論、(186t) 見事な大取引になることでしょう。……しかし、この件は、貴方がたが心に [a un grapezzo?] 思い描いているようにはならないのではないかと、懸念しています。というのは、貴方がたが用意した資金は、大量の小麦 [の代金] には足りるにしても、[雇船費などの] 人に [支払う分に] あまり回せないことになるからです。貴方がたの手で [そちらで] 船を見つけるつもりでいて、それに対しては最小限しか [資金を] 用意せず、それが見つからない場合には、それから、イタリアで [船を] 手に入れようと思っているのであれば、おそらく当てが外れるでしょう。というのは、この計画は、当然計算に入れて然るべきことを計算に入れていないからです。

(187r) 小麦は、イタリア全土にわたって今年は平和が実現しないので、当地では非常に値が上がっています。ここでは、スタイオ当り15 1/2 [リラ] の値段ですが、[それは] 何年か前に制定された法律のおかげで、それ以上の値段を付けることができないからです。しかし、ジョニーリアは、それを輸入してきた者には、この国家の領土ではない土地から運んできた場合には、スタイオ当り4リラの割合で贈与 (奨励金) をくれます。この贈与 [をくれる期間] は1月一杯ということですが、その期限がきた時には、まちがいなく延期されるでしょう。というのは、事態は引き続いて切迫しているからです。[小麦は] 出回らず、貧民は、その三分の一、あるいはおそらく半分以上が、20日間このかた、キビヤアワの粉を食べています。……フィレンツェでは、[スタイオ当り] 4リラ 1/2が通常の値段です。

何通もの私の手紙で貴方がたにいましたように、もし、貴方がたが小麦をこの湾 [アドリア海] に運び込もうと計画しているのでしたら、それを是非、当地に差し向けることにして、船は当地向けに雇ってください。(187t) 同じことを繰り返します。そうしないと、このことを監視するヴェネツィアのガレー艦隊にみつかった場合には、拿捕されて、当地、あるいは小麦を必要とする彼らの領土に連行されてしまい、その代金を徴収することは以ての外になることを、承知しておいてください。……さらに、私たちは、10隻もの船が [小麦を輸入するために] 船団航海に出かけていくなどということは思いもよらない [この] 土地にいるわけですから、[小麦は] 到着すれば、直ちに現金で売れます。お知らせまでに。

貴方がたは、マヨルカの船あるいは他の船を [キオスで] 手に入れようと、キオスに書き送ったとのことですが、どうにかして、2隻ないし3隻を手に入れたのではないかと考えています。

貴方がたは、貴方がたの [小麦の] 持分を何人かに分け与えるつもりだということが、私の耳に入ってきました。その人々とは、ご兄弟のジロラーモとジャンバッティスタ、その外にはコレゼであろうと思います。全てを適切に [配分] しなければならないので、私には分け与えてくれることができなかつたのでしょうか。こうした人々を私の前に置かなければならず、そうした後で、その外の者に分け与えなかつたことは、私は適切な処置であると思います。こうしたことになっても、私は、何も気にかけることなく、ことがうまく運ぶように

するつもりです。……

(188r) 次のことを貴方がたに申し上げるのを、忘れていました。マルコ・クレスポと、彼の船についての話し合いをしていません。彼の手元にある〔船〕は、航海に耐えないからです。ザノビとも話し合っていないからです。船を一隻ももっていないからです。一隻もっていたのですが、そちらの黒海で難破してしまいました。ご報告までに。……

(189t) この〔手紙〕で申し上げましたように、ジロラーモは、ベルナルディの船について、その危険の半分を引き受けるのに同意するつもりはないと、私は思っています。その結果、上記の船は、容易に積み出しに行くことにはならないでしょう。……

[A・2] 1539・11・15, ベラ, グリリエルモ・ダ・ソマイア (195r・t)

(195r) 当地にあった希望、つまりフェッラーラの船と、それとは別のジャン〔ジョヴァンニ〕・ドルフィーノ殿のヴェネツィア船とは、両方とも、一挙に消えてしまいました。ドルフィーノ船は、今夕、キプロスに向けて出航するはずですが、フェッラーラの船は、公が、彼の勘定で送り出すつもりでいます。新たに、我々は、ベルナルディの船を除けば、この港では、どんな船も手に入れることができなくなりました。

(195t) アンコーナの後継者は、私に小麦を積み込むヴォーロスに向かう船を、どうにかして、2隻雇用してくれと、依頼してきました。しかし、上記の理由で、どうにもなりません。

そちらで雇用する船によって、小麦の〔輸送の〕手配をするようにしてください。フィレンツェやナポリからもお聞きになっているはずであると思いますが、私も、イタリア各地では絶対に調達することはできないと確信しております。……

アンコーナから書いてきたところによりますと、貴方がたのガレオン船は、ヴェネツィアのガレー艦隊によってラグーザ付近で拿捕されたということですが、私は何も知っておりません。しかし、もしその詳細が分かった時には、ショニーリアに駆けつけて、被害をこうむらないように手配するつもりでいますので、私に全てを安心して任せてください。……

[A・3] 1539・11・17, リヨン, トマーズ・グアダーニ商社 (199t)

(199t) レヴァントでは、我々フィレンツェ人は、貴方がた〔の滞在する国〕、つまりフランスの使節のおかげで、かなりの輸出取引をすることができますし、さらには、大量の〔の小麦輸出〕が、この輸出取引の偽装の下でおこなわれようとしています。しかし、まずいことには、それを積み込むことのできる船を見つけることができません。

ヴェネツィア船は、〔トルコとの〕戦争のおかげで駄目です……。しかも、ラグーザ〔船〕もありません。ですから、フランス船、あるいはアンコーナ船、あるいはフィレンツェ船を見つける必要がありますが、〔これらは〕非常に少なく、1隻も見当りません。

こうした事情ですから、ベラにいる彼ら自身が船を雇用してはじめて、小麦が手に入ることになりますが、彼らはきっと、少なくとも3隻ないし4隻を見つけ出すことでしょう……。……

フェッラーラ公は、そちらの国〔フランス〕の使節のおかげで、レヴァントより〔小麦を〕輸出することができることになり、彼のアルフォンシーナという400ポツテの船を送り

出します。[公は] レヴァントからもう少し多くを運ぶために、当地で、別のもう1隻を購入するであろうと噂されています。

[A・4] 1539・11・19, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (201t-202r)

(201t) マッフィオ殿の船について、これから(202r)申し上げなければなりません、彼は、貴方がたがその船の保険の半分を負担するつもりがないということを知り、絶対に船を送り出す気はないと、私にいました……。

[A・5] 1539・11・26, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (204r)

(204r) 貴方がたは、小麦の件についてベルナルディに書き送ったと、私におっしゃいましたが、私は、彼とは話し合っておりません。というのは、彼は、何かの訴訟で忙しいからです。……彼は、我々にはとても冷淡なように見受けられます。……

[A・6] 1539・11・29, ペラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (210t)

(210t) 私は、まだ、彼[ベルナルディ]を翻意させることはできません。この航海によって、彼には、ほとんど何の資金も出すことなしに、15,000あるいは16,000[ドゥカート]の利益もたらされるであろうということを、あらゆる道理を用いて説明しました。……彼が私にいうには、私が[貴方がたの代理として]船についての保険の半分を負担すべきであり、その半分とは、8,000[ドゥカート]の10%と評価して、800ドゥカートになると。……さらにいうには、私がこの保険を負担する気がないのであれば、このシニョーリアから小麦に関してもらえるはずの贈与を全部、彼のものにするに私が同意すべきであると……。

[A・7] 1539・12・11, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (222r)

(222r) 昨夕、私は言葉たくみに彼を追いつめ、彼が贈与[奨励金を貰うこと]で満足し、全て彼の危険[負担]でその船を送り出すことに同意すべきであると、いい聞かせました。一方で、私は、彼のいい分にも耳を貸し、彼は雇船料が100スタイオ当り50ドゥカート未満では納得しないので、この保険[掛金]の代わりとして、もう少しだけ多く彼に支払おうかと考えました。それは、この船が無事に帰港した時に、小麦によってえられる利潤の中から支払うことにするわけです。これは、彼に贈与を現金で支払うよりもいいし、保険を掛け、その掛け金の支払いを現金でするよりいいはずです。船が帰港したら、彼に、100[スタイオ]当り50ドゥカートを支払うかわりに、それで満足するはずですが、55ないし56ドゥカートを支払うことにしようと思います。……船を送り出さないままでいるよりは、こうしたやりかたをする方がいいと思います。というのは、ソマイアは、その地方から大量の小麦を輸出する手筈をつけているからであり、ご承知のように、雇船料は小麦の利潤の中から支払うわけですから。

[A・8] 1539・12・12, ペラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (225r)

(225r) 何度かは彼に、私の望むようにしたい、といわせはしたのですが、その後で彼と話しした時には、彼は全く冷淡になっていました。……私が、この船を送り出そうとして、ありとあらゆることをしたことがお分かりでしょう。彼が要求している、船の半分についての保証を負担することについては、彼に、100スタイオ当り、雇船の基本料金として50ドゥカートを支払い、さらに保険金の代わりとして100スタイオ当り5ドゥカートを支払おう、と申し出ました。つまり、全部で100当り55ドゥカートということになります。彼は、頑固で、最初は納得しても、その後で後悔してしまいます……。

[A・9] 1539・12・17, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (229r)

(229r) ベルナルディの船については、全ての話し合いが、煙と消えてしまいました。結論として、彼は、この船には強い愛着があり、危険に曝す気はない、といたしましたので、もはや、考えてみても仕方ありません。他の船については、全く [雇船を] 計画していません。

[A・10] 1539・1・7, ベラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (224t)

(224t) 最後の手紙で、私はベルナルディと合意に達し、彼は船を送り出す手筈になったことを申しあげました。……今月の16日ないし18日には、出航する予定です。現在は、まだ雇船契約書を作成しておりませんが、明日ないし明後日に作成し、その写しをお送りします。

それを隠蔽するために、ベルナルディは、ラグーザ人のオルサットに [偽装] 売却しましたが、私は、この彼 [オルサット] との間に雇船契約書を作成することになります。他のあらゆることも、できる限りうまく偽装します。……

テッサロニキのジャンパッティスタ [ダ・ソマイア] には、この件についての詳細を知らせます。

[A・11] 1539・1・8, テッサロニキ, ジャンパッティスタ・ダ・ソマイアおよびピエロ・ボマロ (246t)

(246t) [ベルナルディの船は] 10日後に、この港から出航させる予定ですので、そちらで船に積荷を待たせることのないように、できる限り最善の方法でその積荷の手配をして下さい。11,000から12,000スタイオを積み込めます。

また、約4,000スタイオの積載力をもつ、別のもう1隻の彼の船も同行しますが、この船については、詳細を書き送ります。

貴方がたに、雇船契約書の写しを送ります。……この [手紙] は、ラグーザ経由で送ります。

[A・12] 1539・1・13, ベラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (252r-261r)

(252r) 今朝、まだ休日だったのですが、私はシニョーリアの面々と内談し、激論を闘わせ、辛い目に会いました……。全てを、私自身の名義でおこないました。というのは、[ヴ

エネツィア人である] ベルナルディは、この件では名前を出す必要が全くないのみならず、彼がこれに係わっていることが漏れてはならないので、全てが、単なる外国人である私の名義でおこなうことになったわけです。……しかし、ベルナルディは、全てをうまく運ぼうと、秘密裡に彼の全ての力を発揮してきました。

(253r) さらに、何隻かのトルコ船を購入し、何とかして、それを我々のところに来させるように手配してください。とにかく、そちらで、何隻かの小船を手に入れるようにしてください。

この取引における参加持分は、次のようにすることを、ベルナルディとの間で確認しました。つまり、貴方がたにはXIII 1/2、即ち十三と半分のカラットを、彼には十と半分、即ちX 1/2カラットを[配分します]。この貴方がたの13 1/2カラットのうちから、私にマッフィオ[・ベルナルディ]の持ち分からは1 1/2カラットを、貴方がたの持ち分からは1 1/2カラットを分けるという形で、三カラット、即ちIIIカラットだけを分けてください。私は、少しで満足しますし、それに報いるために、この事業に衷心より尽くすつもりです。

(235t) ベルナルディの船は、間違いなく3日後に出航しますが、それに積んでドゥカート[金貨]を幾らかテッサロニキに送ります。

(254t) 本日は、同月22日です。小麦[取引]に関する理由によって、今日までこの手紙を発送しませんでした。

(259r) 船は出航する予定であり、2隻とも、良い日和に恵まれて、一路ヴォーロスを、ジャンバッティスタとポマロとを目指して、聖セバスティアヌスの日[1月20日]の夜、当地を出航します。

それらの船長、舵手、書記、および船のその外の主だった者たちが、義務を遂行し、行きも帰りも急ぐようにするために、もし、4月一杯に帰港すれば、各々の職位に応じて、ある者には多くある者には少なく、全員に贈り物をすると約束しました。大船の船長には50ドゥカートを、他の者たちに対しては、[全部で]300ドゥカートから400ドゥカートを分けて与えるように。全ては、急がせるためにしたことです。

私は、我々の同胞、フィレンツェ人のジョヴァンニ・カベッリを積荷監視人として派遣しましたが、彼は、このようなことに対しては非常に有能な男です。

この[手紙]と一緒に雇船契約書を送りますが、そこでは、オルサット・ディ・ジャマーニョの名義にしてあり、リヴォルノ向けと書いてあります。但し、その後で、ベルナルディと私とは、(259t) リヴォルノ向けと書いてあるところを、ヴェネツィア向けと読み換え、リヴォルノの[単位である]サッコ当り55ドゥカートと書いてあるところを、当地の[単位である]100スタジオ当り55ドゥカートと読み換えることを除けば、上記の雇船契約書は有効である、という旨の確認書を作成しました。……それと同じ[雇船契約書の]写しを、ジャンバッティスタに送りました。積載量については、全乗組員との間に合意ができており、それを記したものを船長と書記とに渡してあります……。

(260r) 貴方がたの[ご一族の]ジローラモに対しては、貴方がたが私に商品をヴォーロスに送るように書き送って来たときに、[その商品についての]持分が欲しいかどうかと問

い合わせました。以前、私が貴方がたに紙を送った時に、私が彼に参加持分を分け与えなかったと、彼は不平をいいましたが、このような不平の原因を作らないようにしたわけです。彼は、持分を望んでいない旨、答えてきました。その後、さらに、ジャンパティスタが私に書いてよこした、私が彼に送るべき商品についての覚え書きと目録とを、彼に知らせるために全部書いて送りました。ところが、今度、[1月]10日付けの彼の[最終の手紙]で、[その商品の]三分の一[の持分]をもらいたいと書いてきたのですが、彼にそれをやらないわけにはいかないでしょう。そうすると、三分の二は貴方がたの勘定、三分の一は彼の勘定となり、私には何も残りません。[これらの商品の値段は全部で]約1,000ドゥカートにもなるでしょうが、私は既に四分の三を立て替えており、6日ないし8日後には残金も全て払わなければなりません、私の利潤はどこにもありません。

(261r) この手紙で述べたように、この小麦[取引]の持分に関しては、ベルナルディが10 1/2カラットを、貴方がたもそれと同じだけを、私は3カラットをもつことに、私はベルナルディと取り決めておりました。しかし、最後の詰めの段階で、彼は何もする気がなくなつたようで、私にいろいろと難癖を付けはじめましたが、私は貴方がたのことを思い、王様に対してとるような態度で接しました。私は、この悪魔みたいな男のおかげで、雇船契約書をずたずたに引き裂いて、全てを投げ出してしまおうかという誘惑に駆られましたが、彼の振舞いによって貴方がたが損害を蒙ることのないようにと、貴方がたのことを配慮しました。全てを伝えようとしますと長い話になりますから、今はやめておきます。私は、このことでは絶対に反論をせず、彼がその積荷の半分を、貴方がたが半分をとることに、同意したことをお伝えします。……彼が私にくれぬものですから、私は、貴方がたから[だけ]もらうということはしたくないのですが、当地に運ばれてくるものの中から、私に2カラットをくださる気はないものかとだけ、お伺いします。それをくださることになさっても、そうしようとは思われなくても、私は、貴方がたのお役に立つつもりでおります。

(1989年10月11日 受理)